

中央区立城東小学校 住所 中央区日本橋兜町15-18 (阪本小学校新校舎内)

校長 小久保 秀雄

児童数 162名 学級数 6 教員数 12名 職員数 14名

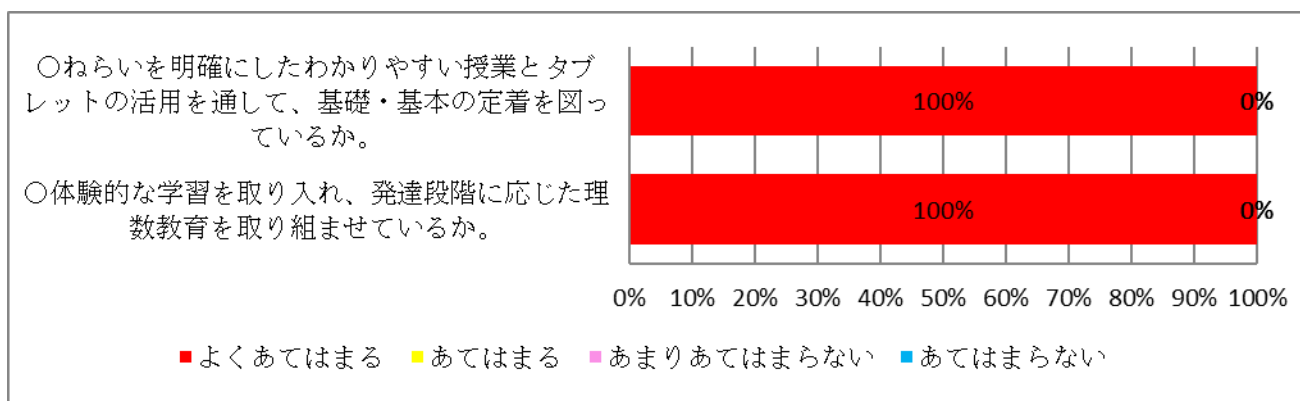
1 重点目標の達成状況及び取組状況

本校では、①確かな学力の向上、②心豊かな子どもの育成、③健康・安全教育の充実の3点を重点目標に掲げて教育活動を行っている。

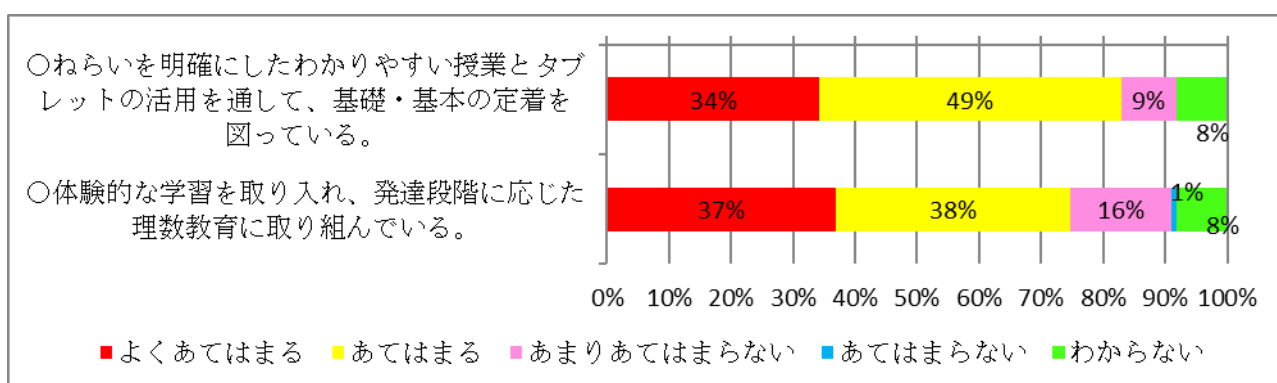
今年度は2学期当初まで緊急事態宣言が度々出されたことや、その後のオミクロン株による感染拡大が見られ、校外学習の受け入れの中止や、早稲田大学との連携による実験教室の中止など、2年間続いている新型コロナウイルス感染症が教育活動の実施に与える影響は大きかった。こうした背景の中、今年度の教育活動について教員の自己評価を行うとともに、令和3年12月に保護者、児童による学校評価を実施した結果、以下のような実態を把握することができた。これらの結果を受け、次年度の教育活動に生かしていきたいと考えている。

(1) 重点目標1「確かな学力の向上」について

<教員の自己評価>



<保護者アンケートによる評価>



※表中の数字(%)は四捨五入のため合計が100にならないことがあります。以下同様。

「確かな学力への向上」への取組では、教員と保護者の評価に大きな差異が出た。

「基礎・基本の定着」では、保護者による評価は「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が83%、「体験的な学習を取り入れた理数教育」では75%と昨年度より大幅に下がっている。今年度は、昨年度の重点目標に「タブレットを活用して」を加えたため、単純な数値比較とはならないが、教員自身が取り組んできたことが保護者に伝えられていないという課題は大きい。

一方、個別の項目（２（２）保護者アンケートによる評価より）では、「わかりやすく楽しい授業」、「基礎学力が身に付くように」は共に90%を超え、昨年度より若干アップしている。「タブレット端末を学習に取り入れている」の項目も90%という高い評価を得ている。また、児童アンケートの結果でも「授業の内容はよく分かるか」において「よくあてはまる」「あてはまる」の合計は100%と高い評価となっている。

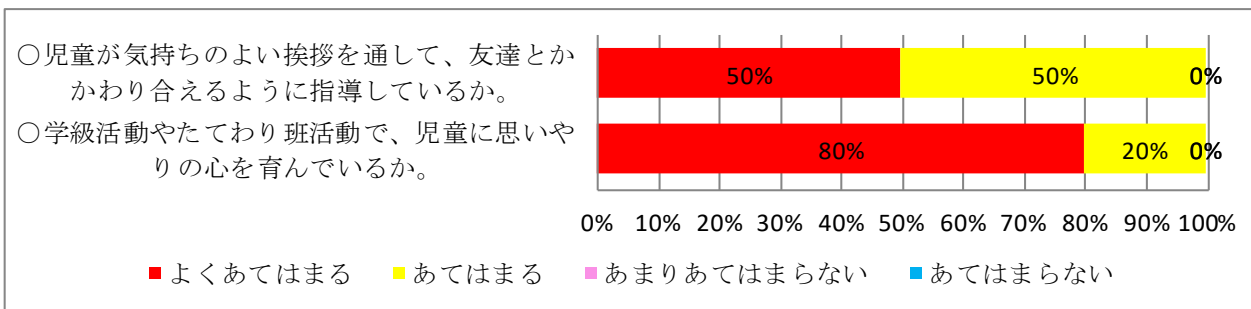
今年度は、度重なる学校公開の延期の中、運動会に代えて体育学習発表会を、学芸会に代えて学芸的発表会を、そして12月には開校60周年記念式典を実施した。これらの公開行事の開催に当たっては、様々な制約のある中、参観者の人数制限、時程の工夫、オンライン配信の試みなど、できるだけ子どもたちの体験的な学びを保障し、保護者にも伝えられるように努めてきたところである。しかし、理数教育に関しては上記のとおり、早稲田大学と連携した実験教室の中止や、サマー・ウィンターサイエンスキャンプの中止など、これまで本校が特色の一つとしてきた体験活動を十分に味わわせることが難しかった。また、ディレクトフォースによる実験教室も予定していたが、学校評価の時点では全学年の実施ができていなかった。

低学年では生活科を通して植物の栽培や校外学習における自然体験等を重視してきた。中・高学年では、理科における自然観察や実験を重視した学習を行っている。また、理科・算数科では、「問題把握」、「計画・見通し」、「実験・自力解決」、「集団検討」、「まとめ・考察」という「問題解決型学習」の過程を大切にしながら、プログラミング的思考の向上も図っている。「わからない」の回答がどちらも8%あることも併せて、コロナ禍であるからこそ日常の活動を丁寧に伝えていく必要があったと痛感している。

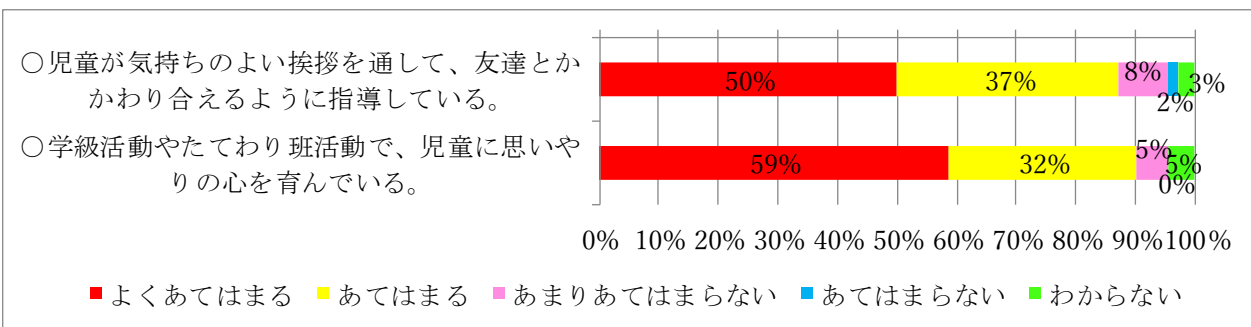
- 次年度以降、まだこの状況が続くことも想定しながら、体験的な学習も可能な限り実施していく。
- ・2学期までに実験教室を実施する。公開できない場合は、紙面等でその様子を保護者に知らせる。
 - ・学校と家庭をつなぐタブレット上での「Classroom」を活用し、体験的な学びの様子を伝える。
 - ・全学年で実践授業を行い、研鑽し合った成果を「城東小理数ニュース」として区内の各校に配布しているが、保護者にも配布する。

（２）重点目標２「心豊かな子どもの育成」について

<教員の自己評価>



<保護者アンケートによる評価>



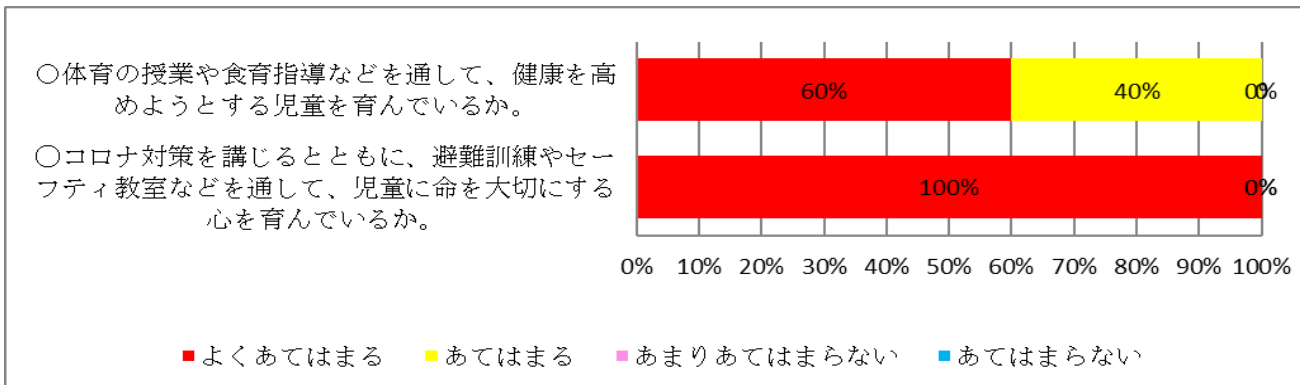
「心豊かな子どもの育成」の取組については、昨年度に比べて「気持ちのよい挨拶」が3%減、「たてわり班活動」が4%増と、若干の増減はあったが、90%前後の高い評価だった。しかし、「気持ちのよい挨拶」については、「よくあてはまる」が14%減となっており、これは児童アンケートの「挨拶」の項目が昨年度より9%減になっていることと通じる。挨拶キャンペーンなどで児童同士が声を掛け合う場を設けているときには意識しているが、キャンペーンが終わると薄れてしまっている様子を捉え、日常的な声掛けを大切にしていきたい。

一方、「たてわり班活動」に関しては、コロナ禍のため、昨年同様、「たてわり班集会」を校庭と体育館に分けて分散型で行う工夫をしたり、状況を見ながら「たてわり班清掃」や「たてわり班遊び」を進めたりしてきた。また、全校遠足が中止になったことを受け、「たてわり班レクリエーション大会」を設け、1年生から6年生までがふれ合える機会をもった。この結果、全体での大幅な増減は見られなかったが、児童アンケートでは「よくあてはまる」が15%増加し、児童の自己肯定感を高めることができたと捉えている。

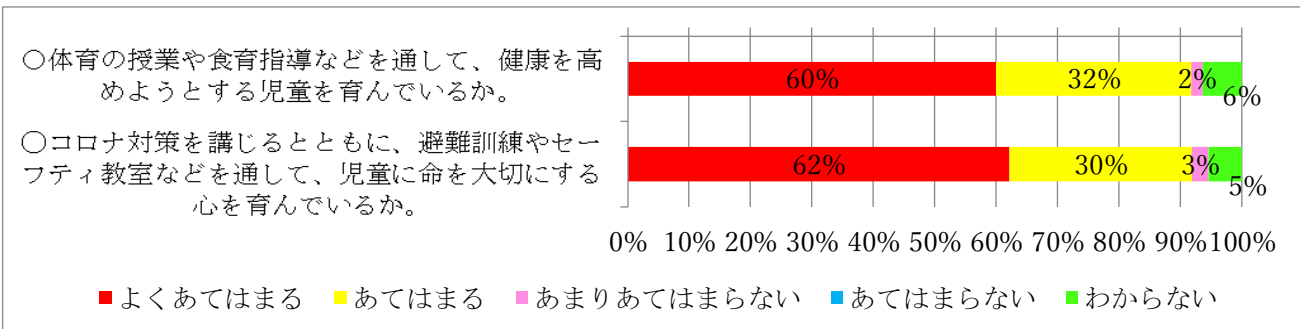
次年度も、コロナ禍であっても全体の状況を見ながら「たてわり班レクリエーション大会」等の活動を工夫し実施していく。

(3) 重点目標3「健康・安全教育の充実」について

<教員の自己評価>



<保護者アンケートによる評価>



体力の向上を図るために、今年度もセントラルスポーツから講師を招き、「投げ方教室」、「かけっこ教室」、「なわとび教室」、「バスケット教室」、「サッカー教室」を行った。また、体育朝会ではチャレンジスポーツとして短縄跳びや長縄跳びに取り組むなど、運動の機会を設けてきた。この結果、児童アンケートの「コロナ対策や健康な体づくり」は94%となり、特に「よくあてはまる」が5%向上していることにもよく表れている。保護者アンケートでは、昨年度より若干下がったものの、92%の高い評価をいただき、教員の自己評価とほぼ一致している。

上記活動の継続に加え、クラス遊びの日を設けるなど、さらに健康・体力の向上を学年・学校全体で意識していけるようにする。

安全面においては、昨年に引き続き、コロナ対策として、校内の清掃、換気、3密にならない環境作りと児童への指導、保護者への呼びかけを行ってきた。また、各行事等の公開の仕方を工夫し、人数を制限したり、時間制を採ったりして、密になることを避けてきた。警察署・消防署と連携したセーフティ教室や引渡訓練・避難訓練等を実施し、SNSの危険性や生活・災害・交通の安全について指導・支援してきた。こうした取組の結果、教員・保護者アンケートにおいて「よくあてはまる」「あてはまる」の合計がそれぞれ92%以上の高い評価となった。今後も、コロナ対策をしっかりと行いながら、安全確保に向けて一層充実した教育活動を目指していく。

2 重点目標以外の評価における達成状況及び達成のための取組状況

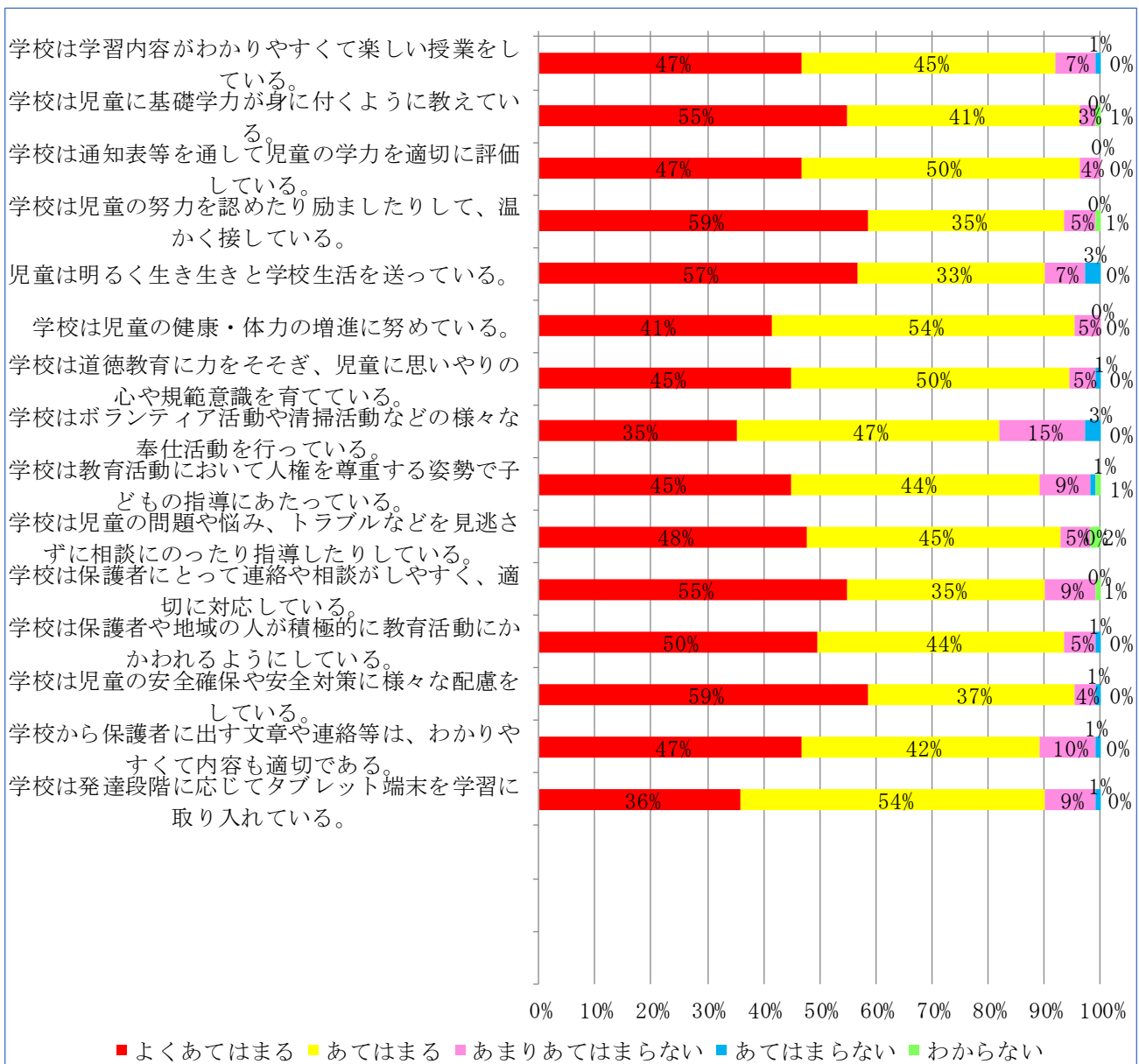
(1) 教員の自己評価より

全体総括では、項目によるばらつきはあるもののほとんどの項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が95%以上の高い評価であった。2年間続いたコロナ対策の中で、試行錯誤しながらできることを追求してきた教職員の思いが表れていると感じている。

また、60周年記念式典が実施でき、その後の「子ども祭り」に保護者の参観が行えたことは、数少ない学校・保護者・地域が一体となり、児童の活躍を応援できた教育活動の場となったと捉えている。

しかし、年間を通して様々な活動の制限を受け、保護者の満足度を十分に引き出せない面もあった。来年度は、夏の校舎移転、2学期からの新校舎での生活と落成式を控え、より一層、保護者・地域と学校が連携を密にして教育活動に当たり、児童の輝く姿を引き出したい。

(2) 保護者アンケートによる評価より



※今年度、下段2項目が追加されました

全ての項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が80%を超え、15項目中12項目で90%以上の高い評価をいただいた。全体的にも、ほぼ全ての項目で昨年度よりも増加している。特に、「児童の問題や悩み、トラブル」は15%、「保護者・地域が積極的に関わられるように」は14%と、大幅に増加した。これは、コロナ禍で対面する機会が減っている中、細やかに電話連絡を取ったり、生活指導面での相談に乗ったりしてきたことが評価されたところである。

また、重点目標1では十分な情報提供ができなかったという評価をいただいたものの、他の教育活動面では保護者の方々にコロナ禍での様々な制約下にある本校の実践をご理解いただいた結果だと捉えている。

しかし、児童アンケートの「悩みなどについて話しやすい先生がいるか」の項目は「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が昨年度より11%増加したものの、まだ60%に留まっている。生活指導夕会を始め、学校サポートチームによる校内委員会などで児童の様子を情報共有し、全教職員で対応に当たるほか、特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーを一層活用してコロナ禍に抱えるストレスや悩みを十分に受け止めるようにしていく。

(3) 児童アンケートの状況より

昨年に引き続き、今年度も4～6年児童にアンケートを行った。重点項目の3つはいずれも90%を超え、高い評価だった。中でも「たてわり班、思いやり」は「よくあてはまる」が15%増と大きく増加した。

各項目では「悩みなどについて話しやすい先生がいるか」が11%増加したが、まだ60%であることを踏まえ、上述の対応を進めていく。また、「学校へ行くのが楽しい」は昨年度とほぼ同様の78%で、コロナ禍で学校生活への楽しみや自己肯定感が高められない状況であることがうかがえる。「あいさつ」が9%減、「約束を守る」が7%減になったことと併せて、「たてわり班活動」の工夫やクラス遊びの日の設定など、学校で楽しく過ごせる場を設け、メリハリのある学校生活が送れるように教育活動を展開していく。

3 今後の改善方策

来年度は、2学期に新校舎への移転、落成式を控えている。新しい環境の中での教育活動の展開に向けた準備を入念に行い、城東小学校の伝統やよさを受け継いぎながら児童の成長につなげていく。

そのためにも、教職員が一体となり、学校からの積極的なアプローチや情報発信をしながら、保護者・地域との連携をさらに密にし、PDCAのサイクルで改善を図っていく。

